



スペクトラル・ウルトラリニア

システム・アプローチ・ケーブル

1980年代初頭、スペクトラルはMITと共同で、ハイスピード・アンプのために時間整合を考慮した最初のオーディオ・ケーブルを開発しました。ケーブル内で発生する位相歪みや瞬間的に発生するノイズを観察する技術をMITと共に開発することにより、時間領域に正確なケーブルを最適化しました。そして、スペクトラルはエレクトロニクスの統合化されたシステムへのドアを開けたのです。

マイクロ波の領域では常識であったこれらの重要なシステムコンセプトをハイエンドオーディオに導入するというスペクトラルとMITの冒険的な仕事は、オリジナルの「Spectral/MITケーブル」を発表以来、次々と革新的な新技術を開発し、オーディオ・インターフェイスをより最適化してきました。「MI-500」のような先進ケーブルと「Shotgun」や「CVT」、「Terminator」といった画期的なネットワーク技術はすべてスペクトラルのオーディオ・コンポーネントと共に設計され、今日のオーディオ・インターフェイスのスペシャリストとしてMITは世界的な名声を得ました。

現在、スペクトラルではMITと共同でオーディオ・インターフェイス・ケーブルの「スペクトラル・ウルトラリニア・ケーブル」を開発し、発売しています。従来の「Spectral MI-500シリーズ」が「MIT MI-330シリーズ」と同等であったとは異なり、MITブランドでこれらに対する相当品はありません。この「スペクトラル・ウルトラリニア・ケーブル」は、スペクトラル・システム・アプローチへの意識をより高めることとなります。

「スペクトラル・ウルトラリニア・ケーブル」にはふたつのクラスがあります。「350 UL2 & 770 UL2」は主に「DMC-20」と「DMA-150」に、「330 UL2 & 750 UL2」は「DMC-12」と「DMA-100S」との組み合わせで特に高いコストパフォーマンスを示します。

MITブランドで、これらよりも高価な「350R」や「850シリーズ」はウルトラリニア・ケーブルよりもグレードは高くなります。設計思想も「スペクトラル・ウルトラリニア・ケーブル」の延長上にあり、完全なシステム・アプローチ・ケーブルです。

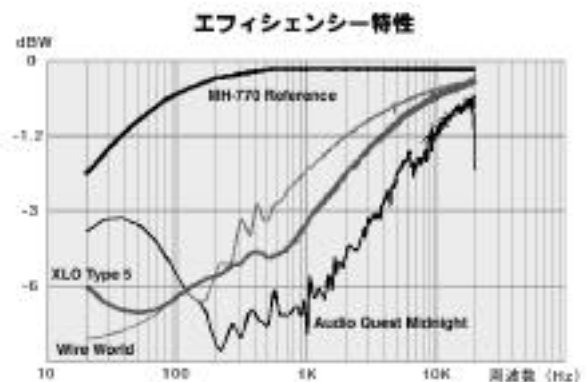
オーディオ・コンポーネントは最終的に聴感を重視して仕上げられますが、その時に使用するコンポーネントひとつひとつがどのような個性（カラーレーション）を持っているかを判断する完全な手段はありません。このためには豊かな経験と深い洞察力を必要とするのですが、それでもオーディオ・コンポーネントはその使用環境の影響を大きく受けてしまい、安定した結果を得ることは難しいです。特に、歪みが少なく、個性の排除を真剣に狙ったものほどその影響を大きく受けるため、真価を發揮させるには厳しい条件が必要となります。

強い個性は目立ちます。理解もしやすく、その特性を活かすのも簡単です。しかし、無個性に近いものを活かすのは難しいです。例えば、「着色された窓ガラス」は目的が明確ですし、真実よりも美しく見せることもあります。しかし、「透明な窓ガラス」はわずかな汚れや反射、歪みも目立ちます。また、浴室やキッチンでは「透明な窓ガラス」を正しく評価することは出来ません。また、そのためには「透明な眼」も必要です。

スペクトラルは「透明な窓ガラス」です。音楽を観るための「透明な窓ガラス」を目指しています。スペクトラルは音楽に忠実なオーディオ・システムへの限りない挑戦を続けます。このためにはシステム・アプローチがどうしても不可欠なのです。

そのシステム・アプローチのひとつとしてスペクトラルはMITケーブルを指定して参りました。それは、スペクトラルのためのケーブルを設計・製造するのがMIT創設のひとつの目的だったからです。では、どのようなケーブルをスペクトラルが要求しているかと言えば・・・簡単、音楽信号を正しく伝達するケーブルです。そんな事は当たり前です。しかし、そんな当たり前事がとても難しく、また、誤解を生むのです。すなわち、良質のケーブルがその真価を發揮するには限られたシステムと環境を必要とするからです。

下図は「MIT MH-770 Reference (770R)」と他ケーブルとのエフィシエンシー特性比較です。他ケーブルはそれぞれが高い評価を得ているものです。エフィシエンシー特性とは自社製品を客観的に評価するためにMITが独自に開発したものです。これはケーブルを多面的に測定し、それぞれの測定結果をパラメーターに使用してエネルギーの伝送性能を表したものです。この結果からもMITケーブルはエネルギー伝送性能に優れ、色付けの少ないことが分かります。スペクトラルのシステム・アプローチには色付けの少ないMITケーブルが不可欠です。



このエフィシエンシー特性はエネルギー（電力）の伝達度を周波数毎に表しています。ただし、各ケーブルの縦グラフは周波数特性を見易くするための相対的な特性です。